

小学校

4,5,6年生

子育てのかたち ○△□

# 輝かせたい 子どものいのち

将来何に  
なりたいの?



保育士さんか  
秘密諜報員!



アイドルに  
なりたい♪

やっぱ起業でしょ

公務員になります

漫画家

## 子どもたちは、どんな夢を 持っているんだろう？

どんな夢だ、たら  
親は安心するのがねー。



オリンピックに  
出る！

先生になりたい

ピアニスト

ガンサーになる

ノーベル賞かな

政治家になって  
日本を変える

お笑い芸人

高卒でメジャーリーグ

ユーチューバーに  
なる！

つぶれない会社に入る

有名になれって  
パパとママが言ってる

何か発明する！

え、サラリーマンかな

いまだき、  
夢とか希望とか  
ないでしょ

夢って叶うの？

わかんない

挫折したときどうしよう？  
夢がない子はどうすればいいの？

フツーでいいんじゃない

フリーター？

年金もらえると  
いいけど

なりたいものとかないし

# 子どもの将来のために

## 親ができることって

## なんだろう？

夢があるのなら  
応援するね！



ありがとう！



お金かかる夢だから  
よろしくね！！

あなたには、「子どもには将来こうなってほしい」という明確な思いがありますか？ また、子どもは夢を持っていますか？

未知の感染症、不況や就職難、社会不安、自然災害などさまざまな問題が山積みの現代社会では、明るい未来を思い描き、夢を持つことさえ難しくなっています。もやもやしている子どもたちを見ていると、親として不安になることもあるでしょう。一方で、明確な夢を持って頑張っている子の応援をしても、ふと「夢が実現できないとき、親として何ができるだろう？」と不安になることがあるかもしれません。また逆に、子どもがいつか夢を叶えたとき、それはその子の人生のゴールとなるのでしょうか？

子どもが「いのちを輝かせる」ために、何かできることはあるのでしょうか？

子どもの将来のために、親は今、何ができるのでしょうか？

**「子どもの将来」について、もう一度考えてみませんか？**

# 子どもの「素敵なところ」を探してみましょう。

子どもの将来について考える前に、まずは、目の前の子どもの「素敵なところ」、「輝いているところ」を思い出してみましょう。  
生き生きしているな、素敵だな、楽しそうだな、と感じるのはどんなところですか？



## 〈記入欄〉

### 〈例〉

- ・ 楽しそうにお手伝いをしている
- ・ リーダーシップを発揮
- ・ 嫌いな食べ物にチャレンジ!
- ・ 黙々と読書している
- ・ クイズ番組に一生懸命答えている
- ・ 学校であったことを楽しそうに話す
- ・ 試合に負けて泣いている
- ・ 自分の気持ちを精一杯伝えている
- ・ 分からなかった問題が解けたとき
- ・ 工作に熱中しているとき
- ・ 歌を歌っているとき
- ・ 目標に向かって頑張っている
- ・ 早起きして毎朝走っている
- ・ 友だちと仲直りできた
- ・ 最後まで頑張ってやり抜いた
- ・ 友だちと遊んでいるとき
- ・ ご飯をおいしそうに食べる
- ・ 重い荷物をさりげなく持つ
- ・ 動物をかわいがる
- ・ 洗濯物をきれいにたたむ
- ・ 嫌なことを嫌だと言える
- ・ 関心のあることについて自分で調べる
- ・ 面白い遊びを考え出す
- ・ 手先が器用
- ・ お年寄りにやさしい
- ・ ムードメーカー
- ・ いつも穏やか
- ・ 細かいことは気にしない
- ・ 常にマイペース
- ・ 人間観察が得意
- ・ 植物や生き物に詳しい
- ・ 小さい子と遊ぶのが好き
- ・ ものまねが得意
- ・ スポーツなら負けない!
- ・好きなことは集中力アップ!
- ・ お菓子作りをしているとき

### 子どもの輝きは氷山の一角

あなたは、子どもの「輝いているところ」や「素敵なところ」を、すぐに思い浮かべることができましたか？ 小学校高学年ともなると、もはや親の思い通りにはなりません。何度言っても言うことを聞かない。すぐに口答えする。親の話の揚げ足をとる……。何をしてもかわいらしく、みんなで目を細めて眺めていたよちよち歩きの時代が懐かしい、という嘆きも聞えてきそうです。

そんな生意気盛りの手強いわが子にも、目を輝かせ、生き生きとしている瞬間がたくさんあります。家族で一緒に過ごしているとき、友だちと遊んでいるとき、今までよりもほんの少し注意して、観察してみよう。今は思い込みという霧に包まれて見えにくくなっている輝きも、あなたが目を凝らせばキラリと光を放ち見えてくるはずです。子どもの輝きは氷山の一角です。見逃さないように目を凝らし、「輝いているところ」「素敵なところ」を探していると、水面下でその輝きを支えている「その子らしさ」が、きっと見えてくることでしょう。

# あなたが見つけた、子どもの「素敵どころ」「輝いているところ」を本人に伝えてみましょう。

子どもは自分自身のよいところになかなか気がつかないものです。「素敵どころ」「輝いているところ」を見つけた時のあなたの気持ちを添えて、素直に子どもに伝えてみましょう。

## 〈例〉

素敵どころ、輝いているところ

表現すると……

元気よく「ただいま!」とあいさつした。



「おお～。元気がよくて気持ちいいね。お父さんまで元気が出るな」

夕食の準備を一緒にした。



「いつもと同じようにご飯作ってるのに、一緒に作るとなんだかお母さん楽しいな～」

学校行事で裏方を頑張った。



(最初は主役をやってほしいと思っていたけど…)「みんなをサポートして頑張っているのを見て、ととてもうれしかった。私、ちょっと尊敬しちゃうな」と、夕食のときに家族でおしゃべり。

家でも学校でも笑いを振りまくムードメーカー。



「〇〇ちゃんがいると、みんなが笑顔になるね。帰ってくると、家の中もパッと明るくなるよ」

友だちとケンカしたけれど、「私も悪いところあったんだ」と話した。



「そうなんだあ」と言いながら、肩をギュッと抱きしめる。「自分が悪いって認めるのは勇気があるよね…。お母さんも、その気持ちわかるな」

## 「私の気持ち」を伝えよう!

子どもが輝いている瞬間を見たとき、そのことをどう伝えていきますか？

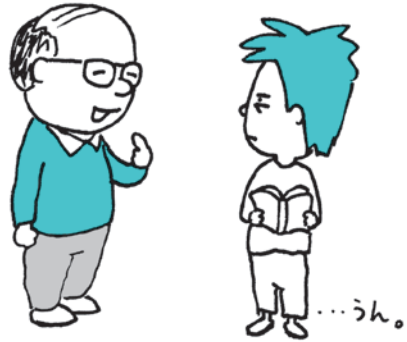
「あのサッカーの試合、とても頑張ってたね」「本をたくさん読んで偉いね」これらはいずれも主語は「私」ではなく、「あなた」です。ほめているとしても、「頑張ったあなた」「偉いあなた」を限定してほめていく感じがします。

「私」を主語にして言い換えるとうどうでしょう。「あのサッカーの試合、あなたの頑張りに感動したよ」「本をたくさん読んでいる姿を見て、頼もしく思ったよ」となります。子どもの様子を見たときにどんな気持ちになったかを伝えることで、子どもは自分がどんなときに輝いているかを知るだけでなく、親に喜びや元気を与えられる存在であることに気付きます。何か特別なことをしなくても、自分が好きなこと、得意なことで輝くことが周囲の人に役に立つことを知るので。

そのことで子どもの「自己肯定感」が育ち、自分は親にとって、社会にとってかけがえのない存在であるという自信を持って育っていくことになるのです。

その髪型、カッコイイな！  
パパにもやり方教えてくれ！

あなたの場合は  
どんなふうに伝えられそうですか？  
5ページで記入した、  
子どもの「素敵なところ」や  
「輝いているところ」を書き出して、  
具体的に子どもに伝えるシーンを  
思い描きながら言葉にしてみましょう。



〈 記入欄 〉



### 体温を感じるコミュニケーション

「前よりもまた成績が上がったね。よく努力して勉強したからだね」

この言葉は、子どもをほめ、その努力を認めている感じがします。しかし、これは、努力して成績を伸ばすことが重要と考える親の価値観を伝えてもいるのです。言葉は、人をやる気にしてくれることもありませんが、時には見えない圧力として、心の負担になってしまふことがあります。子どもによつては、「次の学期はもっと努力しないと喜んでもらえない」というプレッシャーを感じることもあるかも知れません。

例えば、言葉でねぎらうだけでなく、「おおつ、やったね！」と握手やハグをしてみてもどうでしょう。高学年でも、ハグされると照れくさいながらもうれしいものです。スポーツで頑張ったときは、足をマッサージしてあげてもよいでしょう。親が喜びを体で表現したり、体温を感じるコミュニケーションがとれると、大切に思われ、見守られていることを言葉以上に感じることができます。自分の気持ちや行いに自信が持てるようになり、それをこれからの生活に生かすことができるでしょう。

# 子どもの「気になるところ」を 違う視点から見直しましょう。

「素敵なところ」は見つかりましたか？ あまり思い浮かばない人、「気になるところ」ばかりが出てくる人もいるかもしれません。あなたが「気になるところ」も、ちょっと視点を変えると、「素敵なところ」になりそうです。

## 〈例〉

- ・文句が多い …………… 批判力がある／好みがはっきりしている／よく気がつく
- ・ダラダラしている …………… リラックスの達人／無理をしない／心から安心している
- ・勉強が嫌い …………… やらされるのは嫌いだが、自分の興味で学ぶのは好き
- ・ゲームばかり …………… 好きなものに熱中できる／機械に強い／手先が器用
- ・人に頼りすぎ …………… 人を信頼できる／甘え上手／人を巻き込む力がある
- ・自分の意見を言わない …… 人の意見を聞ける／相手を思いやる力がある
- ・おしゃべりでうさい …… エネルギッシュ／話題が豊富で発想が豊か
- ・片づけられない …………… おおらか／ものを捨てられない優しさがある
- ・お手伝いをしない …………… もっとしたいことがある／マイペース
- ・チャレンジしない …………… 慎重派／しっかり状況を分析している
- ・素早く動けない …………… 落ち着きがある／じっくり考えられる
- ・友だちが少ない …………… 一人でも楽しく過ごせる／迎合しない
- ・怒りっぽい …………… 感情を表現できる／感情豊か
- ・自分勝手 …………… 意志が強い／自分を大切にしている
- ・本を読むのが嫌い …………… 漫画は好き／読み聞かせは好き
- ・口数が少ない …………… 思慮深い／周囲をよく見ている
- ・やりたいことがない …… 慎重／無限の可能性がある
- ・しつこい …………… 粘り強い／あきらめない
- ・親の言うことをきかない …… 譲らない意思がある
- ・すぐあきらめる …………… 切り替えが早い
- ・飽きっぽい …………… 好奇心旺盛

アタタが一番  
大事なのよ!



あと、  
世間体も  
ほんのちよと  
大事なのよ。

## ダメな子なんていない

保護者会で子どもの様子を話すとき、「気になるところ」＝短所は話せるけれど「成長したところ」＝長所は思いつかない、と顔を見合わせる場面を見かけます。まず短所が目につくのは、危機から身を守るためにネガティブなことを探そうとする脳の基本的な仕組みによるものといわれています。また、短所に注目すると、短所ばかりが目立って見えるものです。

一方、「短所は長所の行き過ぎたところ」ともいわれます。例えば「穏やかさ」という長所は、見方を変えると「覇気がない」という短所に見えます。ここで穏やかな子と見るか、覇気のない子と見るかは見る側次第なのです。

短所ばかりのダメな子なんていないはず。子どもの短所が目についたときは、「これはどんな長所が行き過ぎたところなのだろう?」という視点で見直してみましよう。長所に目を向ければ向けるほど、これまで気付かなかった素敵なところが見えてくるでしょう。さらに、長所を見ようとするあなたのまなざしが、子どもの輝きをはぐくむのです。



# 子どもの「気になるところ」を「素敵のところ」 「輝いているところ」に変換してみましよう。

左のページを参考にしながら、子どもの「気になるところ」をポジティブな視点で変換し、言い換えてみましょう。なかなか難しいことですが、何人かで意見を出し合うと、「なるほど、そんな見方ができるのか!」という気づきもあるはずです。

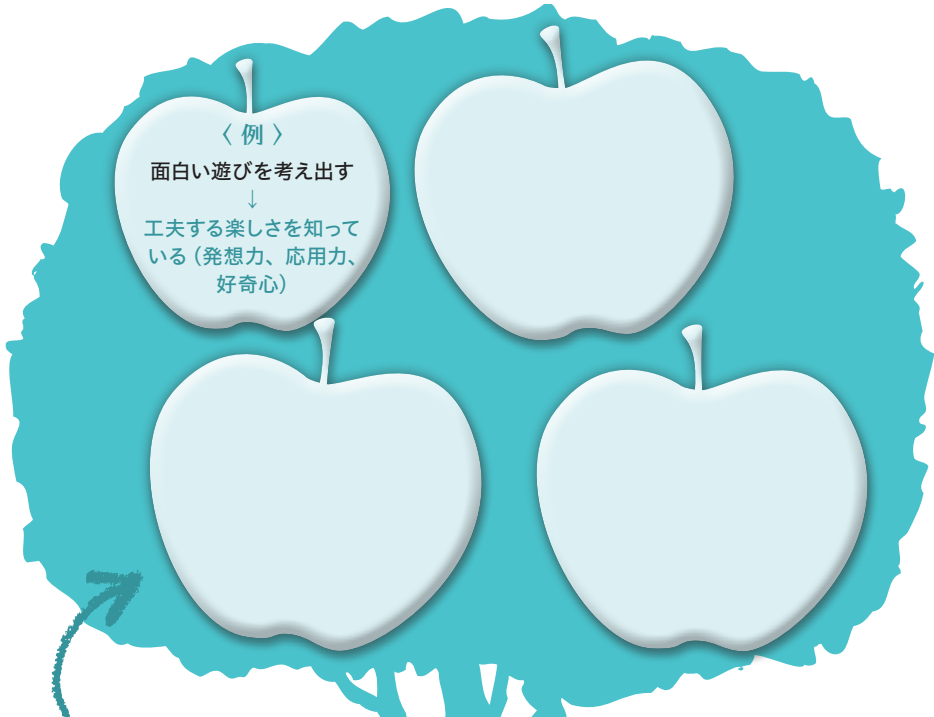
〈記入欄〉 気になるところ

変換すると……



# 輝きの源にあるその子らしさって、なんだろう？

これまでに見つけた子どもの「素敵なおとこ」や「輝いているところ」の源にあるよさや力、その子らしさはどんなものでしょうか。輝いているところをりんごの中に書き出し、例を参考にしながらその源となる地中の項目にチェックを入れてみましょう。



## 輝いているところ

- ・学校であったことを楽しそうに話す ……………» 喜びを人に伝えられる (表現力、明朗)
- ・試合に負けて悔しそうに泣いている ……………» 思いを素直に表せる (表現力、内省力)
- ・早起きして毎朝走っている ……………» 決めたことを続けられる (計画的、行動力)
- ・重い荷物をさりげなく持つ ……………» 周りがよく見える (観察力、思いやり)

## 源にある力、その子らしさ

- |                               |                                 |                                |   |   |   |
|-------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|---|---|---|
| <input type="checkbox"/> 表現力  | <input type="checkbox"/> 行動力    | <input type="checkbox"/> 思考力   | <input checked="" type="checkbox"/> 発想力 | <input type="checkbox"/> 内省力            | <input checked="" type="checkbox"/> 応用力 |
| <input type="checkbox"/> 判断力  | <input type="checkbox"/> 創造力    | <input type="checkbox"/> 空間認知力 | <input type="checkbox"/> 観察力            | <input type="checkbox"/> コミュニケーション力     |   |
| <input type="checkbox"/> 分析力  | <input type="checkbox"/> 論理的    | <input type="checkbox"/> 客観的   | <input type="checkbox"/> 明朗             | <input type="checkbox"/> 親しみやすさ         | <input type="checkbox"/> 思慮深さ           |
| <input type="checkbox"/> 個性的  | <input type="checkbox"/> 計画的    | <input type="checkbox"/> 責任感   | <input type="checkbox"/> 快活             | <input type="checkbox"/> 向上心            | <input type="checkbox"/> 柔軟性            |
| <input type="checkbox"/> 細やかさ | <input type="checkbox"/> バランス感覚 | <input type="checkbox"/> 思いやり  | <input type="checkbox"/> 協調性            | <input type="checkbox"/> 真剣さ            | <input type="checkbox"/> やさしさ           |
| <input type="checkbox"/> 純粹さ  | <input type="checkbox"/> 忍耐力    | <input type="checkbox"/> 公平性   | <input type="checkbox"/> ユーモア           | <input checked="" type="checkbox"/> 好奇心 | <input type="checkbox"/> 正義感            |
| <input type="checkbox"/> 挑戦   | <input type="checkbox"/> 視野の広さ  | <input type="checkbox"/> ( )   | <input type="checkbox"/> ( )            | <input type="checkbox"/> ( )            | <input type="checkbox"/> ( )            |

# 子どもの将来のために、 親ができるのはどんなこと？

前ページでチェックした地中の項目は、将来、子どものいのちを輝かせる原石となるはず。いくつか選んで書き出し、その力やその子らしさを大切にするために、あなたがこれから心がけたいことを考えてみましょう。

## 〈例〉

- ・観察力 → テレビでも本でも、窓の外でも、じっと何かを見ているときは邪魔をしないようにして、時間の許す範囲でその様子を見守る。
- ・発想力 → 大人からするとんでもないことを言い出すこともあり、家族であきれてしまうこともあったが、その面白さや本人の発想の豊かさにもっと目を向けるようにする。どうしてそんなふう考えたのかを聞いてみる。



## 〈記入欄〉



## その子らしさを大切にすることで、 いのちはさらに輝きます。

私たちは、「子どものいのちを輝かせたい」という共通の願いを抱き、親としてできることに精一杯力を注ぎながら子育てをしています。今は、さまざまな不安のある時代であり、いろいろな情報もあふれています。親にできることは、情報に振り回されず、その子自身の輝きや素敵などところの源をみつめて大切にすることです。そうすれば、子どもたちは自分の力に気付くことができ、さらに自ら「いのちを輝かせる」ことができるようになるでしょう。

# 夢の向こうにある志

前早稲田大学大学院 教職研究科教授 菅野 静二

親は子どもによく「夢を持ちなさい」と言います。著名なオリンピック選手や偉業を成し遂げた人が「小さいときからの夢でした」「夢を持ち続けたから実現できたのだと思います」というようなコメントをします。

そのことから、「夢を持ちなさい」「夢を持ったらあきらめずに持ち続けなさい。そうすれば、必ず実現できるから」といわれるようになりました。

夢を持つということは大したことでは、夢は持たなければ実現しないし、持ち続ければ実現に近づくといいこともいえる

でしょう。しかし、必ず実現できるとは限りません。

さて、親であるあなた自身はどうでしょうか。子どものころに描いた夢は、親になった今、どうなっているでしょうか。パティシエになること。サッカー選手になること。学校の先生になること。いろいろあったかと思えます。実現できた人も、実現できずに何となく夢が消えた人も

いるかもしれません。実現できた人に、「今の夢は何ですか?」と尋ねたら、なんと答えるのでしょうか。夢は、実現したら終わるのでしょいか。夢を実現現

きなかつた人は、寂しい思いをしているのでしょうか。

## いのちを輝かせるということ

夢に対して「志」という考え方があります。

「サッカー選手になって、人々が感動するプレーをして、みんなを元気づけたい」「医者になって、病気で苦しむ人の力になりたい」「サッカー選手や医者になる」というのは夢です。それに対し、みんなを元気づける、苦しんでいる人の力になる、というのは志です。夢が個人的なものだとすると、志は人や社会のためにどのように自分の力を発揮するか、ということです。

夢の実現には、それなりの特性や能力が必要ですが、志は誰でも実現させることができます。子どもたちは、人や社会のために力を発揮できたとき、自

己肯定感や自己有用感を持つことができます。生きていることの素晴らしさや、人の役に立つ喜びを味わい、いのちの輝きを感じるができます。そしていつか、自分のいのちの役割を見つけることでしょう。

改めて札幌農学校のクラーク博士の言葉が想起されます。「金ではない。利己的な願望ではない。人呼んで名声という空虚な志ではない。人はいかにあるべきか。この道を全うせんと志を高くしなさい」

子どものいのちを輝かせるため、夢の向こうにある志を意識してはどうでしょうか。

すがの・せいじ 前早稲田大学大学院教職研究科教授。14年にわたって、小笠原村立母島小・中学校、新宿区立大久保小学校・幼稚園、新宿区立四谷第六小学校・幼稚園の校長・園長を歴任。その間、総合的な学習の時間のカリキュラム開発研究発表・文部科学省小中連携教育実践協力校研究発表・いのちの学習「カリキュラム開発研究発表」に携わる。